

平成27年度沖縄県学力到達度調査の結果

義務教育課

1 趣 旨

沖縄県学力到達度調査は、本県児童生徒一人一人の基礎的・基本的な知識・技能及びこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の定着状況を把握するとともに、各学校における授業改善の充実を図るために実施する。

2 実施期日・対象学年・教科 平成28年2月24日(水)・25日(木)・26日(金)

第3学年	国、算	第4学年	算	第1学年	数
第5学年	国、算、理	第6学年	算	第2学年	国、社、数、理、英

3 実施結果

<小学校>

学年	教科	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率	備考
第3学年	国語	15,435人	63.4%	32.6%	4.0%	
	算数	15,436人	80.7%	18.5%	0.8%	
第4学年	算数	14,822人	59.5%	35.5%	5.0%	
第5学年	国語	15,058人	57.7%	34.0%	8.2%	
	算数	15,067人	37.0%	49.5%	13.5%	
	理科	15,098人	53.5%	44.3%	2.2%	
第6学年	算数	15,168人	63.5%	32.7%	3.8%	

<中学校>

学年	教科	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率	備考
第1学年	数学	14,361	44.5%	42.0%	13.5%	
第2学年	国語	14,779	52.1%	41.1%	6.9%	
	社会	14,718	50.4%	43.2%	6.4%	
	数学	14,705	42.7%	46.5%	10.8%	
	理科	14,743	49.4%	47.1%	3.5%	
	英語	14,756	53.9%	43.1%	2.9%	

4 各学年・各教科毎の状況

(1) 小3・5(国語)

漢字を読んだり、書いたりする機会を意図的・計画的に設定し、学習した漢字を習得できるように少しずつ練習を重ねるとともに、文や文章の中で使う習慣を身に付けさせる必要がある。

目的に応じて本や文章を読み、相手意識を明確にした推薦文を書いたり、条件に即して自分の考えを書いたりする活動の充実を図る必要がある。

(2) 小3・4・5・6(算数)

図形の構成を、図形の特徴と関連付けて捉えることができるようにしたり、数量の関係を式に表したり、式に表されていることを図と関連付けて読み取ったりすることができるよう、算数的な活動を取り入れるなど、五感で理解させる必要がある。

「異種の二つの量の割合」の素地となる「測定値の平均」や「単位量あたりの大きさ」について、数量の関係を図や表などに表す活動の充実を図る必要がある。

(3) 小5(理科)

温度の変化により体積が変化するなど、現象としては知っていても「なぜ」と問われたとき、文章で答えることは難しい。実験結果を基に、基本的な見方や概念を図や絵を用いて表現することを意図的に取り入れる必要がある。

(4) 中1・2(数学)

等式の性質を使って、Xの係数を分数から整数にしたり、文字と数の項を左右の辺にまとめたりするなど、方程式を解く手順を等式の性質を使って説明する活動を取り入れる必要がある。

(5) 中2(国語)

多様な情報に触れながら、問題意識をもったり、新たな発想を得たりするためには、複数の本や資料から得た情報を自分と結び付けて考えたり、それぞれの資料に書かれていることを理解した上で、感じたことや考えたことを文章に書いたり、他の人に話したりして、新たな気持ちで問題意識を明らかにする指導が必要である。

(6) 中2(社会)

歴史的事象に関する基礎的・基本的な知識や概念を習得させ、社会的な見方や考え方を養うことができるよう、年表・図・表・写真等の様々な資料を活用して、時代の特色を理解させる活動を充実させる必要がある。

(7) 中2(理科)

自然現象等について視点を明確にして状況を考察したり、図やグラフを読み取ったりするなど、変化の要因等について科学的に捉えまとめる活動を充実させる必要がある。

(8) 中2(英語)

授業の中の言語活動で、実際の生活場面に近い状況でコミュニケーションを図る活動を取り入れることで、英語表現に慣れさせる必要がある。